ティーチング・ステートメント

所属　保健医療学部臨床工学科
名前　相川　武司
作成日　2021 年 12 月 23 日

【責任】

臨床工学科に所属し専門科目である生体機能代行装置学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は臨床工学関連科目（生体機能代行装置学・基礎医学実習・臨床医学総論など）の担当、4 年生の卒業研究・就職指導である。

【理念】

医療行為や医療に関する研究は人間の生命にかかわるものであるから高い倫理観が求められる。そのためには人間（患者）の心理や社会についての知識・理解が必要であり、善悪を正しく判断し自分を律する力を持った人間となってほしい。

医療における治療方法や医療機器等の技術革新は早く、それらの知識・技術の習得には常に学び続けることが必要となるが、それらに対応していくには、理解を通した基本的な知識と技術の習得が必要である。また、突発的なトラブルに対する正しい判断をするためにも知識や経験を基に総合的に考える力が必要となる。これらに対応できる学習方法を身に付けてほしい。

以上のような高い倫理観と技術・社会変化に対応できる学生となるよう教育していきたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、人として最も重要な「基本的態度」の醸成（方針 1）と臨床工学に関する知識、技術の習得と応用（方針 2, 3）を柱に以下の方法で教育を行っている。

方針 1:「基本的態度」の醸成

- 他学科教員や来学者への挨拶を励行している。
- 社会では規則や時間を守ることが基本であり、これが出来ないと信頼関係を築くことは難しい。そのため授業や演習の課題提出のルールや締切は厳守するよう都度周知している。

方針 2:「理解による知識定着」の醸成

- 教員の指名による受け答えを通して理解や知識の確認を行う。
- 授業のスライドや配布資料は要点がわかりやすいようできるだけコンパクトにまとめる。
- 医療機器は様々なセンサーや機構が備わっている。それらの原理や構造を理解させるために実物を見せることを重要視している。
- 健康な者は病気や医療機器を身近に感じることはあまりない。そこで、ニュースや著名人の事例などを話題に入れ説明することで、学生に関心をもってもらえるよう工夫している。

方針 3:「応用力」の醸成

- 臨床で医療機器を使用する際は解剖生理や病態病理実際に関する知識が必要であるため、医療機器とこれらの関連を意識させる授業を展開している。
- 臨床では基礎知識だけでは対応できないことが多い。そのため臨床での経験や論文、症例報告を基にしたケーススタディによる総合的な知識を必要とする授業を行っている。
- ケーススタディでは学生に自由に議論する時間を設け、知識を基に自分の考えをまとめる力を訓練する授業を展開している。
- 各団体から出されているガイドラインや医療機器の添付文書を資料として示し、判断の根拠の基となる情報へのアクセス方法を紹介している。

【成果・評価】

- 授業評価アンケートで概ね満足度が高い。
- 学生の課題提出率と提出期限厳守率が高い。
- 全国平均以上の国家試験合格率を維持している。

【目標】

短期目標

- 学生に最新の情報が提供できるように学会やセミナーに積極的に参加する。
- 学生が理解しやすい教材の開発を行う。

長期目標

- 学生が希望する職種や業務に就くことができる教育・環境を作り上げる。
- 大学在学時や卒業後の学会での発表や論文の投稿数が増える教育を目指す。